

楽器の国のフシギな舞踏会～行田公演～

実施者:ルロット・オーケストラ

社会や地域の課題

コロナ禍での小学校公演に参加させていただく中で、「音楽は人が紡ぎ出している」ということを忘れていた子供の大変多いことや、さまざまな「体験」ができなかったことにより「人と人とのコミュニケーション」を失ってしまっていると感じました。今回の公演後アンケートに「小さい子供も連れていけるコンサートであることが大変うれしい」という声が非常に多かったのが印象的でした。もっと都市部であればこのような公演もたくさんありますが、地方に行くほどこのような公演を開催する頻度は格段に低く、想像以上に「需要」に追いついていない事を感じました。今回は行田市でしたが、同じような事が他地域でもあると思っております。



取組概要及び成果

- ①地域の皆様に、できる限り負担なく気軽にご来場いただきたいという思いで無料開催での公演にしました。
- ②行田市での自主公演開催は初めてであったので、ネットワーク作りから始めました。着ぐるみの方が行田在住の方であったため、ここを基軸に広めていきました。
- ③広報用のチラシには、当団所有の創作楽器やゆるキャラの写真を載せ、「このコンサートは一体何が起きるのか？」という想像を膨らませるデザインを検討しました。また、本公演のための特設サイトを作り、それらの秘密を少し見せるなどの工夫を施しました。広報に関して、今回のターゲットは「小学生とその保護者」に絞りました。鴻巣市・行田市・熊谷市・深谷市の全児童に配布できるよう、クラスごとに枚数を仕分けしてお届けしました。(各市の教育委員会様に大変ご協力いただきました)チラシが約20000部を配布でき、約400名の動員ができました。
- ④公演のチケットお申込みは全てインターネットのみの受付とし、入力内容もできるだけシンプルにして、煩わしさの軽減に努めました。
- ⑤開演前アナウンスに「子供がぐずったら遠慮なく退席可能です。周りの方は温かく見守り下さい」という旨の分言を入れたことで、ご来場いただいた方から感謝の言葉をいただきました。このような小さな配慮の大切さを実感しました。
- ⑥当団の最大の特徴である「創作楽器とオーケストラのコラボレーション」を存分に活かす演目と、それをストーリー形式にしてナレーションをつけて進行することにより、子供も大人も一緒になって驚いたり笑ったりできる内容にしました。その流れで本格的なクラシック曲(木星など)を最後に入れる事で、子供も集中力を切らさずに聴いていただけました。